

# 健やか親子 21 ホームページ活用研修会報告書

2003年3月5日(水) 場所: 島根医科大学

## 1. 主催・共催

主催 島根県(健康推進課)  
出雲健康福祉センター

共催 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業  
「地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」班  
主任研究者 山縣然太郎 (山梨大学医学部医学科保健学 講座)

## 2. 概要

### A. 健やか親子 21 ホームページ活用のワークショップ

(9:30-12:30 対象: 行政担当者 看護学部医療情報学講座)

#### 1. 開会の挨拶



#### 2. 主催者挨拶

#### 3. 講師紹介

山縣然太郎  
谷原 真一  
玉腰 浩司

近藤 尚己  
山田 七重  
葉袋 淳子

山梨大学医学部保健学 講座教授  
島根医科大学環境保健医学第一講座助教授  
名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻  
社会生命科学大講座公衆衛生学講師

山梨大学医学部保健学 講座助手  
山梨大学医学部保健学 講座リサーチレジデント  
山梨大学医学部保健学 講座

#### 4. 参加者のご紹介

5. 講義(20分) 「地域母子保健計画推進へのデータベースの活用」講師: 山縣然太郎

## 研究を構成する骨子

### 1st phase

情報の集積・活用を一元化したシステムの構築及び試験運用

ホームページの構築、母子保健医療情報データベースの構築、健やか親子21取り組みのデータベースの構築

### 2nd phase

情報システム等を利用した継続的な地域マーケティング・リサーチ

研究フィールドとする地域集団の背後に存在する特性、課題を把握し、問題に対して地域の保有資源をいかに効率的に運用するかについて多面的に検討

### 3rd phase

当該研究フィールドにおける介入研究

実際に重点的に保健指導、環境整備等の介入をおこない、その効果について定量的、定性的評価を加えて、有効な地域ヘルスケア・プログラムに関する知見(Evidence)を蓄積

### Final phase

ヘルスケアシステム手法のプロトタイプを提示

一連の流れを一般化することにより、地域レベルにおいて、保健課題に対する現状把握と対策の立案、実施を即応的に行い、その評価をフィードバックする



### 「健やか親子 21」公式ホームページの構築・運営

母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のためにホームページ作成を提案し、「健やか親子 21 公式ホームページ」を作成、運営している。作成にあたり内容決定のために利用主体である母子保健行政関係者に対するニーズ調査をした。平成 13 年 5 月に公開、平成 14 年 8 月 29 日現在、約 79,000 件のアクセスを達成している。さらに、利用度解析により必要度の高いコンテンツから情報ニーズを抽出している。

ホームページには 2 つのデータベースを搭載した。一つは母子保健行政の一次資料となる 2700 余の疫学調査を中心とした母子保健医療情報データベースであり、もう一つは全国市町村、都道府県等における「健やか親子 21」の取り組み状況データベースである。取り組みデータベースには 1 月に 1 万件以上の情報を暫定的に登録し、このうち公開許可が得られた 2300 余の情報について、市町村名を公表し、3 月 12 から本格運用を開始した。

### 6. ワークショップ（100 分：休憩を含む）

- 1) 現場にどんどん活用！健やか親子 21 ホームページ：健やか親子 21 ホームページにアクセスし、全国の取り組みの情報を検索します。
- 2) みんなで体感しよう！データベースのパワー：持参していただいた取り組み情報を実際にインターネット上で入力し、データ登録されたことをホームページ上で確認します。

### 7. ディスカッション（30 分）

- 1) 実習の感想、疑問
- 2) 健やか親子 21 ホームページ、データベースについて

### 8. 修了証授与

### 9. 感想用紙記入



## B. 小児の事故予防研修会

(13:30-15:45 対象:事故予防関係者 100 名程度 看護学部大講義室)

1. 安全点検活動報告 (30 分)
2. 講演「地域で取り組む小児の事故予防」講師 山縣然太郎
3. 感想用紙記入



### 「健やか親子 21」の乳幼児事故対策

#### 第3節 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備

##### 1 問題認識

保健医療水準の向上に向けては、(略)さらに、諸外国と比べて乳幼児の事故死が多いなどの克服すべき課題への対応も求められる。

##### 2 取組の方向性

###### (1) 地域保健(その1)

###### イ 事故等の予防

子どもを取り巻く育児環境を考えると、本人だけではなく、周囲の人の喫煙や飲酒等も問題となる。特に20歳代、30歳代の男女の喫煙率が諸外国に比べ高い状況であり、妊婦及びその周囲の人の喫煙は早産や低出生体重児の出産につながったり、乳幼児突然死症候群(SIDS)、気管支炎、気管支喘息等へも影響している。また、子どものたばこの誤飲・誤食等も起きている。これらの好ましくない育児法についての知識の普及を行い、女性本人の禁煙と周囲の人への分煙等を働きかける必要がある。

##### 3 具体的な取組

###### (1) 地域保健(その1)

###### イ 小児の事故等

小児の事故の大部分は予防可能であることから、小児の発達段階に応じた具体的な事故防止方法について、家庭や乳幼児・児童を扱う施設の関係者に対し、あらゆる機会を利用して情報提供、学習機会の提供を行う。家庭と地域における事故防止対策を浸透させるために、まず都道府県と市町村レベルに協議会を設け、地域における目標を設定し、事故防止対策の企画・立案、推進・評価を行う。

##### 3 具体的な取組

###### (1) 地域保健(その2)

保健所等に事故防止センターを設置し、家庭や乳幼児・児童を扱う施設の関係者に対し、事故事例の紹介、具体的な事故防止方法の教育の実施、乳幼児の模型を用いた心肺蘇生術等の応急手当の学習機会の提供等を行う。地域で生じた小児事故事例について医療機関等から定期的に把握し、原因の分析等を行うとともに、関係者に対しその情報提供を行う。また、事故は家屋や施設の構造上に問題があるなど物理的な環境で生じることも多いことから、物理的環境の改善を進める等の取組も考えられる。併せて、マスメディアを通じた広報も活用していく。

### 子どもたちを事故から守る環境整備

- ・事故は予防可能である。
- ・いつも気をつけているのは無理。
- ・気をつけているから大丈夫が危険因子
- ・危険のない環境づくりをする。
- ・家庭の役割
- ・地域の役割
- ・ネットワークの重要性
- ・具体的な対策が重要
- ・チェックリストで確認
- ・誤飲チェッカーなど小道具の活用



C. 小児の事故予防ネットワーク

(16:00-16:30 対象:ネットワーク会議委員 30 名程度看護学部)

\*助言者 山縣然太郎

